

2 学期始業式式辞「なぜ選挙に行かなければならないか」

2019.9.2

今日から2学期が始まりますが、夏休みに入ってからすぐ、2019年7月21日に参議院選挙がありました。生徒のみなさんの中にも選挙権のある人がいますが、投票に行ったのでしょうか。

総務省によると今回の参議院選挙の18歳投票率は34.6%。全体の投票率48.8%を14.2%下回っています。若者の投票率の低さが問題になっています。

日本での選挙は1890年から始まりましたが、選挙権があったのは当時15円以上の税金を払っている25歳以上の男子だけで人口の1.1%でした。女性が選挙権を持つのは1946年。日本国憲法が公布された後です。20歳以上の男女に選挙権が与えられました。そして2016年には18歳以上の男女に選挙権が与えられました。普通選挙が始まり、女性が選挙権を持つから、まだ73年です。選挙権獲得には多くの人々の大変な努力があったのです。多大な努力の末勝ち取った選挙権を、18歳の65.4%が放棄しています。

選挙に行かない理由

① 「誰に投票したらよいか、わからない」→選挙公報を読む(選挙管理委員会が発行配布)

政見放送を見る、聞くなどして、誰に投票するかを考えましょう。

② 「行っても無駄。何も変わらない。票を入れたい政治家がない。」

これが買い物なら、欲しいものがないときは買い物に行かない方がいいです。多くの人が買わなければ店は困るし、潰れてしまう。だからお店は人々がもっと気に入るものを準備しようと努力します。が、政治家は「投票に行かない人の気に入るような政治家になります。」とは言わない。なぜなら、政治家はものを売る企業でもないし、商品でもない。基本政治家は、投票してくれた人や団体の代表として働こうとするからです。

買い物と違って投票率が低くても政治家は困らないし、誰かは必ず当選し、政権が発足します。しかし、その政権が愚かな政策を行った場合、被害は投票した人にも投票しなかった人にも及びます。政治には戦争を起こすことだってできます。戦争が起きたら被害は全国民に及び、全国民の命と環境が危険にさらされます。だから、「ぜひこの人に当選してほしい」という候補者がいなくても、「なるべく自分の意見に近い人」、「一番戦争をしなそう人」に投票すべきです。めんどろでも自分で考え、自分の将来のために必ず投票に行ってください。

最近ネットなどで「愛国者」「売国奴」などの強い言葉が使われています。本当の「愛国者」とは現在の社会体制を無批判に指示する人のことではなく、国の将来を思って、社会がおかしいと思ったら社会体制を声に出して批判し、正そうとする人のことです。そうやって国民の命と環境を守る人です。ですから、「人と環境の三木北高校生」は棄権をせず、しっかり考えて投票してください。そして、日本国憲法前文に「われらは、全世界の国民が、ひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有することを確認する。」とあるように、自国のことだけでなく、他国の「人と環境」も大切に考え、守っていかなければなりません。

2022年4月から、成年年齢が18歳に引き下げられます。高校生は大人の自覚を持って、社会や政治のことをしっかりと考えてほしいと思います。